

協議事項 10

学年（チーム）担任制について

学年（チーム）担任制について、協議事項として以下のとおり提案する。

令和6年11月12日提出

神戸市教育委員会事務局

事務局長 高田 純

## 学年（チーム）担任制 今年度の実施状況

### 1. 学年（チーム）担任制の概要

- ・学級担任を固定せず、学級担任業務を複数の教員がローテーションで担当するなどして行う学級運営の方法。
- ・令和5年4月より小学校2校、中学校2校でモデル実施。
- ・令和6年度は、小学校5校、中学校3校、義務教育学校1校にモデル実施を拡大。

### 2. 課題への対応状況

課題①「児童生徒や保護者が、どの教員に相談したらよいか分かりづらい。」

【モデル校での対応例】

- ・児童には担任が交替する際、掲示等で示す。
- ・保護者にはローテーション表を学年だよりや「すぐる」等で周知する。

課題②「教員間で児童生徒の情報共有や事務引き継ぎ等のもれが起りやすい。」

【モデル校での対応例】

- ・定期的な打合せの実施だけでなく、隙間時間を活用した報連相を行う。
- ・校務支援システムのチャットや Teams 等を活用する。

### 3. 児童生徒へのアンケート結果

- ・令和6年7月に実施したアンケート結果によると、児童生徒は概ね肯定的に受け止めていると考えられる。

〔例〕「先生たちはみんなで自分を育てようとしてくれているように思う」

	肯定的意見	否定的意見
小学校	69% (67%)	7% (9%)
中学校	75% (65%)	5% (11%)

※（ ）は令和5年7月のアンケート結果

### 4. 学校運営面での効果

- ・学級間格差の少ない安定した学年運営ができる。
- ・事案等にチームで対応することで、教員にとって心理的負担が軽減される。
- ・対話の機会が増えることで、教員の資質向上、休職・離職の未然防止などの効果が期待できる。
- ・育児や介護などへの対応を含め、教員の多様な働き方にも対応しやすくなる。



対話機会の増加

経験の継承（ベテラン ⇒ 若手）  
ICT機器操作の支援（若手 ⇒ ベテラン）  
心理的な安心感

一人で抱え込まない仕組みとして有効

[参考1] モデル実施校一覧（青…令和5年度より継続、赤…令和6年度より新規）

区	学校園名	実施学年	実施形態・交替頻度
灘	摩耶小学校	5年	3clを4人 1週間毎交替
		6年	2clを3人 1週間毎交替
兵庫	浜山小学校	5年	2clを3人 1か月毎交替
北	花山小学校	5年	3clを4人 1週間毎交替
		6年	2clを3人 1週間毎交替
須磨	西須磨小学校	6年	4clを6人 3～4週間毎交替
須磨	東須磨小学校	5年	3clを4人 1か月毎交替
		6年	3clを4人 1か月毎交替
東灘	本山南中学校	1年	6clを9人 1週間毎交替
		2年	7clを11人 1週間毎交替
		3年	7clを11人 1週間毎交替
長田	雲雀丘中学校	1年	2clを5人 1週間毎交替
		2年	2clを5人 1週間毎交替
		3年	2clを4人 1週間毎交替
垂水	神陵台中学校	1年	2clを5人 1日交替
		2年	3clを6人 1日交替
		3年	3clを6人 1日交替
中央	港島学園	5年	3clを4人 1週間毎交替
		6年	3clを4人 1週間毎交替
		7年	2clを4人 1週間毎交替
		8年	3clを4人 1週間毎交替
		9年	3clを4人 1週間毎交替

[参考2] 児童生徒へのアンケート結果（令和6年7月）

	小学校		中学校	
	肯定的意見	否定的意見	肯定的意見	否定的意見
①自分は、色々な先生たちと関わっている。	67% (68%)	9% (15%)	70% (57%)	8% (17%)
②先生たちは、それぞれ自分に関わってくれる。	65% (64%)	8% (11%)	71% (60%)	6% (13%)
③色々な先生の良さが分かる。	77% (76%)	7% (9%)	79% (73%)	4% (10%)

※（ ）は令和5年7月のアンケート結果